



NAKAMURA

FLOWER BULBS SINCE 1955

株式会社 中村農園

NAKAMURA-NOEN CO.,LTD.

〒781-0270 高知県高知市長浜 5381
5381, Nagahama, Kochi 781-0270, Japan

☎0120-874195 (ハナヨイキューコン)

Tel. (088)841-1311 Fax. (088)841-0603

E-mail: info@nfb.co.jp URL: http://www.nfb.co.jp

お客様各位

情勢報告

2022年3月28日

株式会社 中村農園

中村 慶吾

いつもお世話になっております。

2022年南半球産の状況について、ご報告申し上げます。

①2022年南半球産について

面積はNZ産が増加、CH産が減少と言われており、全体としては前年と同程度かやや少ないオファー数だったと感じています。

弊社が3月上旬に行ったアンケートによりますと、日本向けの販売球数は、前年同期比100.5%（弊社101.6%）でした。昨年は収穫期の追加が多かったため、（最終輸入球数）植物防疫統計比では96.4%となっています。日本にとりましては、CHで生産が多いプレミアムブロードとバンドーム、又NZ産が激減したザンベジを除くと、例年通りNZ産を主体とした仕入れになったと思います。

2020年産から2021年産にかけて、コロナの影響もあり、生産コスト上昇分の値上げがありましたが、今年もCH産各社と23年産からCHに移るアイランドバルブ社が、2021年オランダ産の不足感を背景に、先行して価格を高く設定してしまい、NZのバッカー社、バンザンテン社もややそれに引きずられる形となりました。

粘り強く説明と交渉を行いましたが、日本の球根価格は弊社だけの意見では通らず、全体の流れを変えられるような状況ではありませんでした。

物事が不安定なときに、その会社の力量や本質が現れるものと思いますが、適正価格を超えた「過度な値上げ」ではなかったか、球根流通の安定と発展への影響は、世界マーケットが中期的に判定を下すことと思います。使い古された言葉ですが「信頼と実績」は、互いを補完する両輪であり、バランス感覚が大事です。

さて、国内に流通する球根単価の幅も近年大きいと聞きます。取扱数量や輸送効率、自社貯蔵施設の有無や為替管理など、単価に影響する条件はそれぞれ異なり、昨年秋の弊社調査では、一般的な同品種で10円近い単価差というものも見かけました。元々、注文の球根単価が不明瞭だったり、コスト上昇リスクを後から生産者側に転嫁できる取引が今もあるためと思いますが、円安が進む中、昨今の物価上昇ムードに乗じた、過度な値上げをされないようご注意くださいと思います。

弊社では、取扱予定品種一覧表（2月15日付）にも記載しております通り、南半球産の冷凍賃を11月まで無料とし、12月以降も半月区切りでの料金となっています。